

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
G204	マクロ経済学Ⅱ	2年	講義	2	大石和博
授業概要 マクロ経済学Ⅱではマクロ経済学Ⅰでの学習を踏まえて、インフレーションや失業などマクロ経済学Ⅰより発展的な内容について講義を行います。マクロ経済が身近に感じられるように、新聞紙面に出てくる主要なマクロ経済統計の使い方や弱点にも触れたいと思います。この授業で学ぶマクロ経済モデルは、都市に生起するさまざまな問題を考えるための有効な分析用具であり、3年次以降の学習や研究でも必要になります。できるだけマクロ経済学Ⅰの直後に履修してください。					
到達目標(学習の成果) ・マクロ経済学の基本的な用語(インフレーション、実質利子率、摩擦的失業など)について説明することができる。(DP3) ・経済モデル(貨幣数量説など)を説明することができる。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	マクロ経済学のデータ	講義概要、復習(実質GDP、名目GDP、GDPデフレーター)			
2	貨幣システム	第4章 貨幣量の測定			
3	貨幣とインフレーション(1)	第5章 数量方程式			
4	貨幣とインフレーション(2)	第5章 貨幣発行収入			
5	貨幣とインフレーション(3)	第5章 名目利子率と貨幣需要			
6	貨幣とインフレーション(4)	第5章 インフレーションの社会的コスト			
7	貨幣とインフレーション(5)	第5章 ハイパーインフレーション			
8	失業と労働市場(1)	第6章 離職、就職と自然失業率			
9	失業と労働市場(2)	第6章 職探しと摩擦的失業			
10	失業と労働市場(3)	第6章 人手不足、M字カーブ、大卒求人倍率			
11	失業と労働市場(4)	第6章 公共政策と摩擦的失業			
12	失業と労働市場(5)	第6章 教育訓練給付金制度、雇用調整助成金制度			
13	失業と労働市場(6)	第6章 実質賃金の硬直性と構造的失業			
14	失業と労働市場(7)	第6章 労働組合と団体交渉			
15	失業と労働市場(8)	第6章 労働市場の経験			

準備学修(授業外の自己学修)

最もよい準備学修は新聞を読むことです。特に、『日本経済新聞』をできるだけ毎日読むようにしてください。

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、提出物(40%程度)、期末試験(60%程度)で評価します。ただし、遅刻、欠席および受講態度不良は減点の対象となることがありますので注意してください。

観点	S	A	B	C
マクロ経済学の基本的な用語について説明することができる。	マクロ経済学の基本的な用語を「十分に」理解し、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	マクロ経済学の基本的な用語を「ほぼ十分に」理解し、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	マクロ経済学の基本的な用語を「かなりの程度」理解し、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	マクロ経済学の基本的な用語を「ある程度」理解し、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。
経済モデルを説明することができる。	数値例を用いて「正確に」説明でき、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	数値例を用いて「ほぼ正確に」説明でき、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	数値例を用いて「かなりの程度」説明でき、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	数値例を用いて「ある程度」説明でき、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。

教科書

下記の教科書を使用します。

N. グレゴリー・マンキュー 『マンキュー マクロ経済学I入門篇(第4版)』東洋経済新報社、2017年、税込み 4,104円。

参考になる本

- ① 吉川洋『マクロ経済学(第3版)』岩波書店、2009年。
- ② 福田慎一ほか『マクロ経済学・入門(第4版)』有斐閣、2011年。

履修上の注意・学修支援

この科目を履修する前に、マクロ経済学 I を履修して下さい。